



⑤イルカ水路の中を群れて泳ぐマダイ⑥コバルト色の小さな斑点と目の上のラインが特徴的

マダイ

学名 *Pagrus major*

分類	スズキ目タイ科
全長	70センチ
分布	奄美諸島、沖縄諸島を除く北海道以南の日本周辺海域
特徴	体表にコバルト色の小さな斑点があり、目の上にはアイシャドウのようなコバルト色の模様があるが、大型の個体では目立たない。鹿児島湾では釣りや刺し網などで一年中漁獲されており、県が選定した「かごしま旬のさかな」の春の種に指定されている。春に、産卵のため湾の外から数多く入ってくるマダイは「入りタイ」と呼ばれ、時には10キロを超える大物が釣れる

鹿児島湾で年中取れる

子どもの頃、テレビで流れていた釣具店のCMは「マダイの宝庫、錦江湾」というキヤッチコピーから始まりました。それ以来、「錦江湾（鹿児島湾）」といえはマダイ」と糸を垂らします。

マダイは成長に応じて生息域を拡大します。幼魚の時には陸地に近い浅い海域でアミ類やヨコエビ類、ゴカイなどの多毛類などを餌にします。成長するにつれて水深10メートルより浅い場所から水深30メートル程度まで活動範囲を広げます。1歳以上になるとエビ類やカニ類などの甲殻類や、

イカ類、ヒトデ類、貝類、魚類なども餌にします。2〜3歳では生息する水深も30メートルから最深で200メートルとなります。鹿児島湾内のほぼ全ての場所が、これらの条件を満たします。

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

マダイは成長に応じて生息域を拡大します。幼魚の時には陸地に近い浅い海域でアミ類やヨコエビ類、ゴカイなどの多毛類などを餌にします。成長するにつれて水深10メートルより浅い場所から水深30メートル程度まで活動範囲を広げます。1歳以上になるとエビ類やカニ類などの甲殻類や、イカ類、ヒトデ類、貝類、魚類なども餌にします。2〜3歳では生息する水深も30メートルから最深で200メートルとなります。鹿児島湾内のほぼ全ての場所が、これらの条件を満たします。

かごしま水族館では、海とつながっているイルカ水路でもマダイを見ることが出来ます。成長するまでの間を浅い海域で過ごすマダイにとって、網で囲まれたイルカ水路は外敵が少なく、安全な場所なのかもしれません。水路の中にはカタクチイワシやキビナゴといった小型の魚類も入っているのですが、時にはマダイが小魚を追って水面をバシバシやと波立たせます。水族館の4階でも展示していますので、ゆったり泳ぐ姿をぜひ見に来てください。（展示課海獣展示係・中村政之）